



神撃つ朱い荒野に
荒巻義雄
徳間書店
(4/30刊・¥1200)

ビッグ・ウォーズ・シリーズの枝篇——つまり、浄土一成やハイパー・マクドナルドを主人公とした本篇とは別に、いくつかのエピソードを付加した、いわば「外伝」である。

『神撃つ……』は、火星を舞台に陸上巡洋艦「青葉」の戦いを描いた、オムニバス中篇集だ。敵とする神々は、実体のない存在である。だから、戦う相手は、神々に忠誠を誓う、同じ人間たちなのだ。「なぜ、我々は戦い合わねばならないのか」——壮烈な戦闘シーンの合間で、印象に残る反問である。しかし、この戦記には、いくつかとまどう点もある。例えば、(太平洋戦争の連合艦隊を、そのまま移した)火星陸上艦隊が、存在する経済的、物理的意味。独特の用語、地中潜水艦とか火星ノット、あるいは天使の姿をした爆弾など、これらは、ハードSFというより、むしろ、ファンタジイのイメージに近い。古来SFの描き続けた、(空気があり、運河の流れる)幻の火星の雰囲気横溢するが故に、かえって意識されるのかもしれない。ただ、火星戦記のシリーズは、これから何巻も書き継がれていく。その中で、しだいに落ち着いた位置を占めていくのだろう。